

がん患者の療養生活の最終段階における体系的な苦痛緩和法の構築に関する研究

がん疼痛の治療アルゴリズム構築に関する研究

研究分担者 田上恵太 東北大学 大学院医学系研究科 講師

研究要旨：がん拠点病院・緩和ケア病棟ではない医療機関、緩和ケアの専門家が不在な医療機関においても専門家が行う「がん疼痛の症状緩和」が行えるようなアルゴリズムの構築を目的としている。本研究ではアルゴリズムの構築と併せて、現在のがん疼痛への治療の実態の調査を行うことで、がん患者の痛みがどのように症状緩和されているかを明らかにするだけでなく、構築しているアルゴリズムの妥当性も併せて検証する。

A. 研究目的

すべての医療機関において緩和ケアの専門家が行う「がん疼痛の症状緩和」が行えるような標準的がん疼痛治療アルゴリズムの構築を目的としている。併せて、現在の本邦におけるがん疼痛への治療の実態の調査を行い、どのように症状緩和されているかを明らかにする。

B. 研究方法

先行研究や現在の実臨床の実情を踏まえながら、研究協力者間ではがん疼痛治療の標準的なアルゴリズムを構築する。またがん拠点病院の緩和ケアチームががん疼痛の症状緩和目的に介入した患者を対象に、がん疼痛の治療の状況や有効性の評価、難治性疼痛の因子の分析を行う。

（倫理面への配慮）

がん疼痛の治療の実態調査は、緩和ケアチームの通常診療の過程で取得されるものであるが、患者情報を特定できない様な対処を行う。

C. 研究結果

現在研究者間でアルゴリズムの草案の構築は済んでいる。現在上記の観察研究の症例を2021年6月末まで集積中である、。

D. 考察

現在がん疼痛治療に関する現状を調査する観察研究を行っている。がん疼痛の治療の実態と、対処が難しい難治性がん疼痛の因子抽出が行えるような研究デザインを構築している。また上記のアルゴリズムの妥当性も検証している。

E. 結論

現在データ集積中である

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記入

G. 研究発表

1. 論文発表

データ集積および解析後は、がん疼痛の治療を受ける患者の疫学調査の結果、およびアルゴリズム構築とアルゴリズム治療の有効性の検討を英語論文で報告予定である。

2. 学会発表

上記の研究結果を国内、および海外の緩和ケアに関する学術学会において発表を行う予定である。なお本研究のデザインは国内学会のシンポジウムで発表済みである。

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

特許取得の予定はない。

2. 実用新案登録

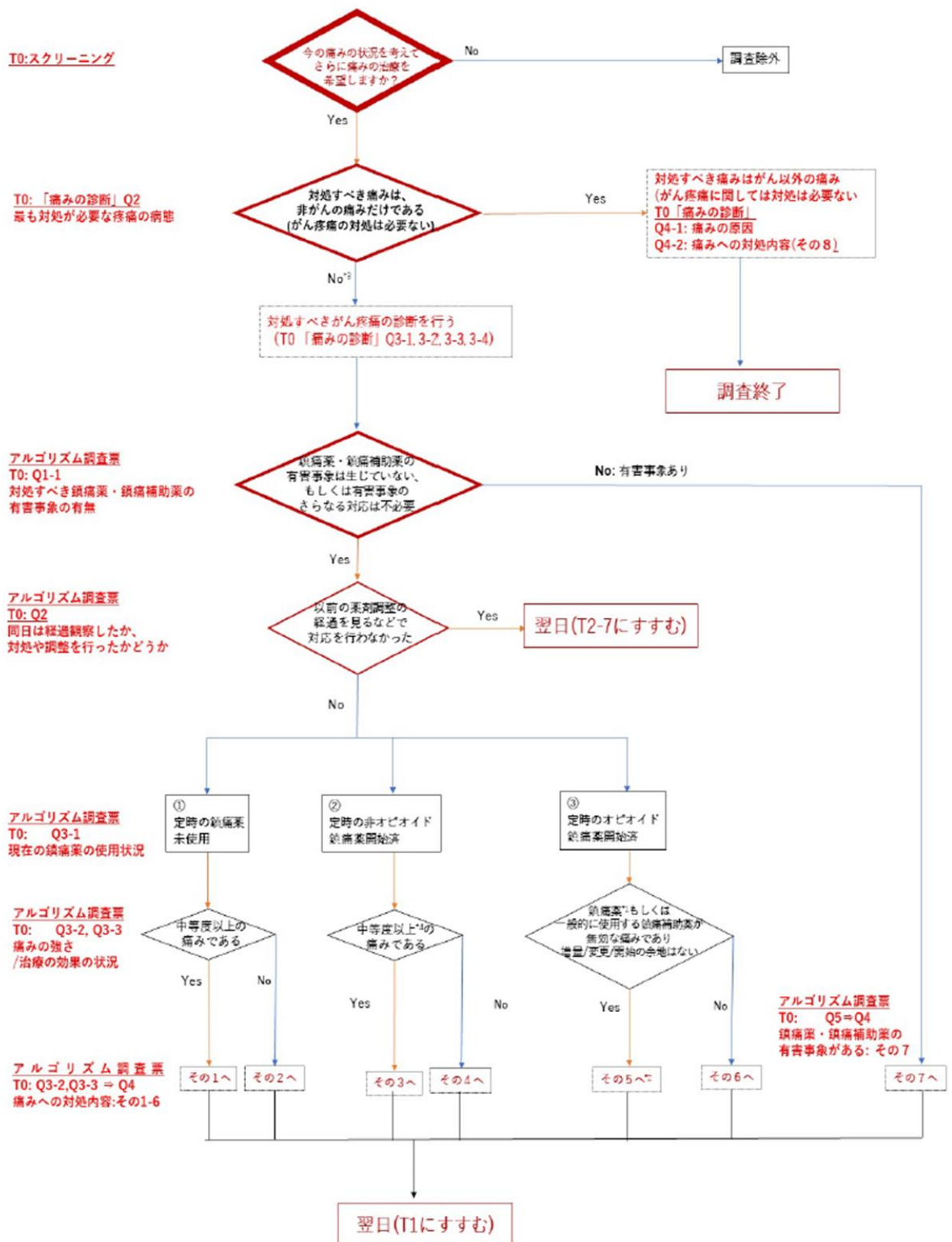
実用新案登録の予定はない。

3. その他

特記事項はない。

がん疼痛の薬物治療での症状緩和に関する治療アルゴリズム (T0)

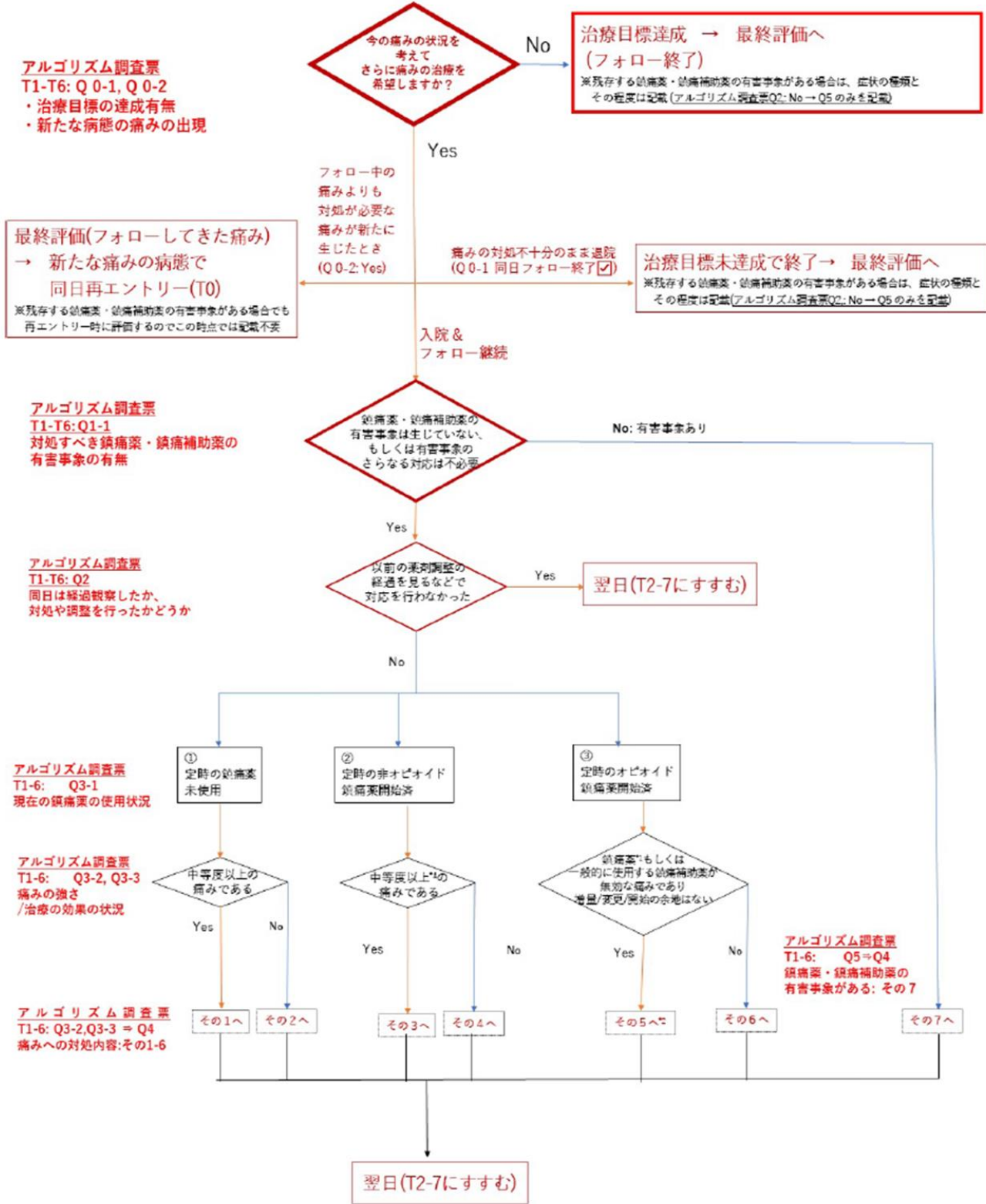
非オピオイド鎮痛薬 (内服薬、坐薬、注射薬)	オピオイド鎮痛薬 (内服薬、坐薬、注射薬)	強オピオイド
・NSAIDs ・アセトアミノフェン	・弱オピオイド ・コデイン ・トラマドール ・アプレノルフィン	・モルヒネ ・オキシコドン ・フェンタニル ・タベンタドール ・ヒドロモルフォン



*1 メサドンを除く
*2 同日のアルゴリズム治療からは逸脱
*3 治療関連痛(化学療法誘発性神経障害性疼痛、術後痛、放射線性障害など)、慢性痛(がんやがんの治療とは関連しない痛み)
*4 Numerical Rating Scale(NRS)≧4、もしくはSTAS-J 2: 中等度の痛み 以上、IPOS 2: 中くらいあった 以上

がん疼痛の薬物治療での症状緩和に関する治療アルゴリズム (T1-6)

非オピオイド鎮痛薬 (内服薬、坐薬、注射薬) ・NSAIDs ・アセトアミノフェン	オピオイド鎮痛薬 (内服薬、坐薬、注射薬) ・弱オピオイド ・コデイン ・トラマドール ・ブレンロフィン	・強オピオイド ・モルヒネ ・オキシコドン ・フェンタニル ・タペンタドール ・ヒドロコルモフォン
---	--	--



*1 メサドンを除く
 *2 同日のアルゴリズム治療からは逸脱
 *4 Numerical Rating Scale(NRS)≥4、もしくはSTAS-J 2: 中等度の痛み 以上、IPOS 2: 中くらいあった 以上

